

## 7 月度の総括

### 進学塾ビッグバン

母のために持ち帰ったさまざまな土産物、たとえば中国の刺繍、日本で誰かがくれた勇壮な弁慶の人形などを見せていたとき、私は自分が初めての海外旅行から帰ったばかりの旅行者のような気がした。しかし私の宝物——青島の日本の将軍が、(添えた手紙にそう書いてくれたように)私が大和魂を持っているからと言って譲ってくれた日本刀——を取り出すと、母は悲鳴を上げ、そんな恐ろしいものを家の中に入れるわけにはいかないと言った。

大学生だった私は、自分が何になりたいか、わからないでいた。見通しは暗かったが、このまま日本語の研究を続け、自分の運を信じることにした。

——ドナルド・キーン「私と 20 世紀のクロニクル」——

万博公園の中に少年野球場があり、真っ黒に日焼けした少年たちが歓声を上げています。その横を大きなかばんを抱えた、ほとんど日焼けしていない少年少女たちが(彼らの半分は眼鏡をかけています。)おそらく塾の夏期講習会を受けるために急ぎ足で通り過ぎていきます。

わが塾のある阪急茨木市駅前のパチンコ店には、夏なのに黒ずんだ厚手の服を着た中年の男女が列を作って開館を待っています。難しい顔で競馬新聞を広げている者もいれば、何事も笑いさざめいて広げた口から欠けた歯を見せている者もいます。うちの塾はもう始まっています。ひとり遅刻した生徒が私をちらと見て決まり悪そうな顔をし、さらに急ぎ足で教室へと向かいます。彼は夏なのに日焼けしていません。

スポーツのさわやかさ、青春時代、競争社会、格差社会、学歴社会、そして、下流社会、ということばが次々と浮かんで消えます。教育とは何か、を考えます。教育とは、結局これを十分に受けることができた者と受けられなかった者を差別するためにあるだけでないのか、という言葉も浮かんできます。

ASEAN の中で近年飛びぬけて経済的發展を遂げたシンガポール(もともと経済活動に長けた華僑の国)が、数年前、所得の低い女性が妊娠すると強制的に中絶させる制度を設けていたそうです。理由は、所得の低い女性の子供はたいした教育が受けられていない、たいした未来があるわけがない、そういう連中はやがてスラム街を形成して社会環境を壊すだけだ、というものだったそうです。日本では考えられないな、と思って、知り合ったシンガポール人に質すと、言いにくそうに口ごもり、「今ではそんな制度はなくなりましたよ。」と答えました。社会が發展すれば、必ず取り残される人々がいます。取り残される人々に寄り添って「發展こそ悪だ、権力だ」と叫んだのがかつての学生運動であり、住民運動の考え方であり、ありがたでした。今 50 歳代の人々は多かれ少なかれ、その洗礼を受けており、職業のどこかに「しこり」のようなわだかまりを持っています。

50 歳代の私自身、教育に携わる者として、「取り残されまいとして必死になっている受験生」にこそ自らを押し上げる臂力を授けたいと思っています。やる気のない子は私の教え子ではありませんが、放っていても合格する子も私の教え子ではありません。「やる気はあるがどうしても体が動かない子、やる気はあるが方法がわからない子」だけが私の教え子です。

ドナルド・キーン氏は 1922 年ニューヨーク生まれ。アメリカ・アカデミー会員、日本学士院客員、文化功労者。勲二等旭日重光章受章。太平洋戦争に従軍したのち来日し、三島由紀夫、安部公房、司馬遼太郎らとも親交し、日本の文化と芸術を世界に広めるのに多大な貢献をなした人です。「碧い眼の太郎冠者」「二つの母国に生きて」「明治天皇」上下などの多数の著書があります。近著「私と 20 世紀のクロニクル」の帯には、「私の人生は、信じられないほどの幸運に満ちていた」と書いてありますが、本文の中には冒頭に記した「自分の運を信じることにした」が書かれてあります。「自分の運を信じること」がすべての始まりだったと述べているのです。人生のとば口にいる若い受験生たちには、どうかこの言葉を胸に刻んでいただきたいと思います。

7 月に入って、体調を崩す者、怪我をする者が続出しました。けれど、「やめる」と言い出す者が一人もいなかったのは褒めてあげていいと思います。7 限目英語の採点が私の朝の日課の始まりですが（年のせいかな、最近は夜に仕事ができなくなりました。）、できる生徒、できない生徒が皆それなりに懸命に答案を作ろうとしている姿勢は昨年までとは比べ物にならないほどで、いい結果を出してくれよ、と祈るような気持ちになります。

7 月 14 日は前期最終日でした。事務員方が昼休みの食事時を利用してカレーパーティーをしてくれました。事務管理部長の発案でしたが、彼女が一週間ほど前に私に許可を求めてきて、私は一も二もなく、「許可」を与えました。もちろん、ビッグバンの年間予定にはなかったことですが、それだけに、経営側としてはとてもうれしく、かつ感動しました。当日、事務員の彼女たちは、それぞれの自宅で仕込んできた大量のカレールーをいつもの弁当屋に頼んでおいたご飯にのせてふるまい、さらに、教務主任が母上の漬けた漬物を、統括主任講師が手製の極辛カレーを持参してこれに加わり、さながらちょっとしたホームパーティーのようでした。前期誰もがこれまでにないほど勉強してきたと言い、少し休ませて欲しいと泣き言を言っていた中での実にタイミングのよい、つかのまの安らいだ空間でした。「あなたのお家には 1 人のお母さんがいます。ビッグバンには 6 人のお母さんがいます。」をひしひしと感じた次第でした。

「女は子どもを生む機械」と発言して物議をかもした政治家がいましたが、機械では永遠にできない、生むばかりではなく、育てるという離れ業をこともなげにしてのける母たちの「優しさ、強さ」に、ことに遠方から親元を離れてきている生徒には特に、触れることができたビッグバンの子もたちは幸せだな、と思い、どうかこの受けた「優しさ、強さ」を将来の、弱い立場の患者さんたちに授けてくれれば、と願うばかりでした。

夏期クラス分けテストでは、何人かの生徒がクラス落ちしました。本人たちはそれぞれにショックを受けていたようです。原因はそれぞれが熟知しているはずですが、ショックのまま終わるのか、ここから立ち直るのかは本人次第です。そのあたりどう認識し、対処するかが問われています。昨年は、できる子とできない子との差が激しく、いわば固定された身分制のようなものでしたが、今年は、飛びぬけてできる子がないため、クラス分けテストでは急降下あり、下克上ありの状態です。それこそちょっと気を抜けばとたんに相対的成績が落ちてしまいます。生活態度が崩れると朝起きられなくなる、遅刻する、休むようになる、成績が落ちる・・・いずれにせよ影響はすぐにあらわれます。

7月22日は、金沢医科大学オープンキャンパスツアーがおこなわれ、ビッグバンからは13人の受験生が前泊して参加しました。驚いたのは、キャンパス内で行われた模擬面接の模様を、モニターで見ている時でした。小グループに分かれたディベート・ディスカッションの場で、普段はおとなしいS君やO君が、凜と張りつめた声で、内容、タイミングとも的確に発言し、いつの間にか場を制する形で他の受験生をうまくリードしている様でした。こういう場は得てして世間ずれした多浪生がその場を仕切るものなのですが、S君もO君も1浪生です。饒舌をこととする関西の予備校で培っただけのことはあると思いました。同時に、少人数とはいえ、やはり集団生活はS君、O君に限らず、若者には必要なんだな、と感じました。最近では、個別指導が花盛りで、中には個別指導だけを授業スタイルにしている医系予備校もあります。けれども個別指導だけでは、例えば、チーム医療の適格性をみるためのコミュニケーション能力を試すディスカッション・ディベートなどで必要な微妙な間の取り方などは学べないのでは、と思うのです。昔の下宿では隣の住人に気を遣ってステレオのボリュームを絞ったり、麻雀台の下に毛布を敷いたりして音を出さないようにしたものです。ところがウオークマンが登場してからというもの、また麻雀もゲームに取って代わってからのというもの、一人一人が周りに気を遣うことなく、音楽を聴くことも、ゲーム感覚を味わうこともできるようになりました。ここに若者のコミュニケーション能力の衰退が始まったといえるのです。事実、少人数であれ、集団生活をしていれば、誰しもが様々な軋轢を感じ、常にトラブルの一つや二つは抱えているものです。ですから受験生に限らずそんなことにいちいちかまけてはいられないはずで、けれども、今の若者はそんな些細なトラブルさえ、ストレスの権化と化してしまうのです。ひどいものになるとひきこもり、あるいは犯罪行為にさえ手を染めてしまいます。結局は、以前にはなかった、「ひきこもり」だの「キレる若者」だの現象も、若者が本当の意味での集団生活を営んだことがないせいではないかと思えます。トラブルと向き合い、暴力を使わないで誰もが少しずつ我慢して譲歩して解決をする、というコミュニケーション能力が今ほど問われている時期はないのではないかと思います。

金沢医科大学のオープンキャンパスは相変わらず盛況で、かつてビッグバンから学士編入試験で合格したYさんや昨年AO入試で合格したN君がわざわざJR金沢駅まで来てくれ、貴重なアドバイスをくれました。大変ありがたいことで、この思いやりの伝統を今後とも続けていけたらと思いました。

7月23日からは、プレイバック講座が始まりました。前期内容を復習し総括する講座です。大手予備校で1年かかってやることの8割を終えている勘定になります。徹底的に復習してください。合格した人の多くが復習の効果と大切さを語ってくれます。これが終わると本格的な夏期講習会です。新しい内容の学習がしばらくは続きます。

夏はまだまだ続きます。お盆を過ぎると第2回全統マーク模試、8月下旬には医科大学フェアが待っています。苦しいですが、何とか乗り切ってください。